

期 中 の 評 価 個 表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	昭和63年度～平成24年度（25年間）										
事業実施地区名 （都道府県名）	アフトロマナイ川 （あふとろまないがわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 宗谷森林管理署										
事業の概要・目的	<p>当地区は利尻山を頂点とする利尻島東部扇状地で、源頭部には大規模な崩壊地があり、この大規模な崩壊地からの土砂生産活動が活発なため古くから治山工事が実施され一定の成果を得てきたところである。</p> <p>しかしながら、渓床には不安定土砂が大量に堆積しており、降雨等により土石流が発生していたことから、不安定土砂の流出防止、山脚固定及び渓床の侵食防止を図り下流域の保全及び保安林機能の増進を目的に本事業に着手した。</p> <p>また、事業着手直後の平成元年・2年に発生した土石流は海岸にまで達し、沿岸漁業等に甚大な被害を与えたが、平成11年に発生した土石流では、これまでに施工した床固工等により渓床勾配が緩和され、土石流を拡散させるなど渓床・渓岸の洗掘も少なく施工の効果が現れていた。しかしながら、平成18・19年に発生した土石流では、既存の治山施設を埋没させながら下流の道道・沿岸漁業に甚大な被害を与えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主な事業内容： 溪間工 90 基 山腹工 4.79 ha ・ 総事業費： 2,019,316 千円（平成15年度の評価時点：1,986,880千円） 												
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>平成18・19年の集中豪雨災害により山地荒廃が進み溪間工が増加したため、平成19年度に、総事業費を平成15年度の評価時点の1,986,880千円から2,019,316千円に見直している。</p> <p>なお、平成20年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。</p> <table> <tr> <td>総費用（C）</td> <td>2,537,965 千円</td> </tr> <tr> <td>総便益（B）</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 水源かん養便益</td> <td>66,328 千円</td> </tr> <tr> <td> 災害防止便益</td> <td>2,712,850 千円</td> </tr> <tr> <td> 計</td> <td>2,779,178 千円</td> </tr> </table> <p>分析結果（B / C） 1.10</p>			総費用（C）	2,537,965 千円	総便益（B）		水源かん養便益	66,328 千円	災害防止便益	2,712,850 千円	計	2,779,178 千円
総費用（C）	2,537,965 千円												
総便益（B）													
水源かん養便益	66,328 千円												
災害防止便益	2,712,850 千円												
計	2,779,178 千円												
森林・林業情勢、農山漁村の状況その他の社会経済情勢の変化	<p>当地区は利尻山を頂点とする直径12kmの円形をした火山島で、標高400m以下は典型的な扇状地となっており、渓床に不安定土砂が堆積している。当地区の森林の特質は、主に扇状地上に分布するトドマツ・エゾマツの林が約100haと谷筋上に見られるハンノキやカンバなどの若い広葉樹である。保全対象となっている人家32戸、道道600mについては特段の変化はない。また、ウニ、コンブ、アワビ等の漁業は地元の主要産業となっている。事業対象地の上流部は、自然公園第1種特別地域又は特別保護地区である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保全対象： 人家32戸 道道600m 												
事業の進捗状況	<p>渓流の不安定堆積土砂の流出防止及び渓岸侵食の防止を図るため溪間工・山腹工の整備を進めており、全体計画の進捗率（事業費）は、55%（平成19年度末）である。</p>												
関連事業の整備状況	<p>下流部において砂防事業による導流堤、砂防ダムが設置されている。</p>												
地元（受益者、地方公共団体等）の意向	<p>当地区上流部には大面積の崩壊地があり、大量の不安定土砂が生産されていることから、これまでも堆積された土砂が集中豪雨や長雨等により土石流となって下流部に流出し、民家をはじめ公共施設及び沿岸水産資源に被害がでている。このようなことから、河川の上流部から海域への土砂流出を防止し貯砂容量を確保できる大規模な谷止工の新設及び施設内で捕捉・抑制している相当量の土砂の計画的な除石の継続実施を要望する。（利尻富士町）</p> <p>地元町からの要望を十分踏まえ、今後とも事業の継続実施を要望する。（北海道）</p>												
事業コスト縮減等の可能性	<p>資材運搬路の路盤材として現地発生材の利用やダム本体と間詰の一体施工による型枠等工事資材の節減による事業費の低減を図っており、今後も一層のコスト縮減に努めることとしている。</p>												
代替案の実現可能性	<p>該当なし。</p>												

第三者委員会の意見	近年も土石流災害が発生しており、下流域の保全の必要性、地元町の要望等から今後も周辺環境に配慮しつつ、関係機関と連携して事業を継続実施することが望ましい。
評価結果及び実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 溪床には不安定土砂が大量に堆積しており、不安定土砂の流出防止、山脚固定及び溪床の侵食防止対策が必要なこと、地元からも強い要望となっていることから、下流域の保全及び保安林機能の増進のため事業の必要性が認められる。 ・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討しており、実施に当たってもコスト縮減に努めていることから、事業の効率性が認められる。 ・有効性： 当事業の実施により溪床勾配が緩和され、土石流を拡散させるなど溪床・溪岸の洗掘も少なく堆積する土砂の安定など下流域の保全等が図られてきており、事業の継続により更にその効果が高まっていくものと考えられ、事業の有効性が認められる。 <p>上記 ~ の各項目及第三者委員会の意見を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、事業の継続実施が妥当と判断される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施方針： 事業を継続する。